

普及センターだより

No.129

MISATO

発行 宮城県美里農業改良普及センター

〒987-0005 遠田郡美里町北浦字笹館5

TEL (0229) 32-3115 E-mail msnokai@pref.miyagi.lg.jp

FAX (0229) 32-2225 URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

松山町酒米研究会（右下は、第9回オリザ賞受賞式の様子）

普及の窓 「みんなで期待の新星を盛り立てよう！」

美里農業改良普及センター
技術副参事兼総括次長 伊藤嘉彦

新型コロナで世間が疲弊している中、とびきり明るいニュースが飛び込んできました。

稲作を通じて農業振興と地域づくりの優れた取組を称える第9回オリザ賞に、「松山町酒米研究会」の皆様が準大賞の栄誉に輝きました。同研究会は、平成7年に結成された組織で、地元酒造会社を中心に良質な酒米の安定供給に尽力されてきました。最近では、宮城県オリジナル酒造好適米「吟のいろは」の作付にも取り組まれています。

コロナ禍で消費の落ち込んだ日本酒業界の中で気を吐いたのが、同品種を原料とした製品と聞いております。この世に生まれ出て間もないながらも高い可能性を秘めた「吟のいろは」が、期待の新星となれるか否かは、関係するすべての組織において同じ目標に向かって大事に育てていくことが出来るかどうかにかかっています。

生産者にも酒造会社にも、そして日本酒を味わっていただける方々にも一位指名される品種となるよう、今こそ関係者が一枚岩となって、「吟のいろは」を盛り立てていきましょう！

令和3年度プロジェクト課題紹介

本年度は3つのプロジェクト課題に取り組みました

土地利用型農業法人の早期経営安定

農事組合法人おさとファームは、令和3年度は水稲、大豆、小麦合わせて計36.9haを生産しています。普及センターでは、法人経営が早期に安定するよう、経営管理、転作作物の生産安定の二つの面から支援を行いました。

経営管理では、法人会計勉強会を全3回開催し、決算書の仕組みや予算実績管理について解説し、経営管理能力向上を進めました。その後、実績を基にした月別資金繰り表を検討し、資金の流れを踏まえた上で次年度の計画が作成されました。

法人の基幹品目の大豆生産では、農地整備工事の影響や小麦収穫作業との重複により、は種の早い所と遅い所で1か月半以上開くこととなり、管理作業が複雑になりました。そこで転作作物の生産安定に向けて、は種が早いほ場と遅いほ場で生育調査を行い、適期作業指導と併せて、生育の数値化を通して栽培基本技術の習得を支援しました。

来年度は、法人の持続的な経営が可能になるよう、中期経営計画策定と転作作物の高品質安定生産を支援することとしています。



法人支援の様子

地域の特色を生かした「吟のいろは」の産地化の実現

松山町酒米研究会では、良質な原料米の確保に向けた肥培管理等の研究を重ねており、令和3年度の「吟のいろは」は約8ha、10名が栽培に取り組みました。

昨年に引き続き、栽培前に仮の指標を設定し、栽培管理技術の早期確立を目標に4か所の展示ほを設置しました。併せて、追肥や刈取時期についても支援しました。出穂後の低温等もあり、玄米の上位等級は目標に届きませんでした。今までの結果を基に、高品質米の安定生産に繋がりたいと考えています。

また、県酒造組合及び蔵元との意見交換を実施し、実需者の求める米の把握に努めました。2月には、相互理解を深める目的で、生産者と実需者との意見交換会を予定しています。

次年度も研究会の活動を支援し、「吟のいろは」の品質向上と栽培定着を図ってまいります。



ほ場で生育状況を確認

持続的な生産に向けたこねぎ栽培技術の向上

J A新みやぎみどりの地区本部、J A新みやぎ仙台小ねぎ部会と連携し、本プロジェクト活動を実施しました。

今年度は、昨年度に続き熟練生産者の栽培管理技術をセンサー等により数値化する「見える化」を行い、特に若手生産者の技術向上に取り組みました。また、複数の生産者のハウスで土壌硬度等の土壌物理性調査を実施し、深耕や有機物施用等による土壌改良に繋がっています。あわせて、土壌病害対策として「畝立後太陽熱土壌消毒」の実証ほを設置し、病害の抑制効果が確認されたため、本技術の波及が期待されます。

今後は、「見える化」の調査で得られた知見を、各生産者のほ場条件に合わせ活用していくと共に、土壌物理性改善や土壌病害対策などを通して連作障害を回避するための支援を継続していきます。



現地検討会の様子

重点的な普及活動の紹介

活動項目	内 容	対 象
新規就農者の確保・育成に関する取組（新規就農）	新規就農者の早期経営安定を目的に、巡回による個別指導や、集合研修会を行いました。令和4年1月には取組が多いねぎ生産者を対象に集合研修会を開催し、新しい作型の提案や事例紹介を行いました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生 ・ 教育機関 ・ 農業研修生 ・ 新規就農者
園芸産地の育成に関する取組（園芸重点）	みやぎ園芸振興戦略プランの目標達成に向け、土地利用型加工業務用野菜（青ねぎ、たまねぎ）生産者への栽培指導を行いました。また、企業的園芸法人に対し、経営の安定化に向けた専門家の派遣や各種事業導入等の支援を行ってきました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象農業経営体
地域農業を担う集落営農等の法人化に関する取組（農業経営管理）	法人化を目指す集落営農組織に対し、事業計画やルール作りの検討が円滑に進むよう、関係機関と連携して支援を行いました。 令和3年8月に（農）おおぬき彩土里ファーム（大崎市田尻）、9月に（農）荻塚ノースファーム（美里町）が誕生しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象生産組織
「金のいぶき」による地域活性化に関する取組（地域実情）	「金のいぶき」は玄米食が人気ですが、収量が不安定な特徴があるため、農家経営への定着が難しい品種です。 今年度は、調査データに基づく栽培指導を中心に、安定生産技術の浸透・産地形成を目指して活動を行ってきました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管内「金のいぶき」生産者

管内農業の動き

農産物品評会 受賞おめでとうございます！

令和3年10月に宮城県の農林産物品評会及び花き品評会が開催されました。その結果、農林産物では、大崎市鹿島台(有)マルセンファームの中玉トマト「フルティカ」が3等・宮城県知事賞を受賞されました。花きでは、大崎市鹿島台遠山忍氏のパンジー「絵になるスマイル」が金賞・東北農政局長賞、大崎市鹿島台(株)フローラ平山のトルコギキョウ「セレブクリスタル」が金賞・宮城県知事賞・(株)仙花代表取締役社長賞、美里町柴山真二氏のばら「ロンドンアイ」と大崎市鹿島台(有)マルセンファームのスプレーぎく「セイヨーク」が銀賞を受賞されました。受賞おめでとうございます。



子実用とうもろこし生産に向けたセミナーを開催

コロナ禍での米消費の低迷を受けて、主食用米から新たな転作作物への転換が求められています。その1つとして省力栽培が可能な「子実用とうもろこし」が注目されており、涌谷町内の生産者が、畜産試験場と連携を図りながら令和4年から栽培を開始する予定です。

栽培にあたり、子実用とうもろこしへの理解を深めてもらうため、生産者や市町担当者などを対象としたセミナーを開催しました。

セミナーでは、東北農業研究センターから「水田転換畑における子実用とうもろこしの魅力」と題した講演が行われ、国、県、飼料会社、NOSAIから各種情報提供があり、120人の出席者がありました。

今後の子実用とうもろこし生産拡大に向けて、引き続き技術支援を行っていきます。



「若手経営者経営管理講座」を開催

若手経営者が農業経営の計数化を通して経営管理能力の向上を図れるよう、「若手経営者経営管理講座」を、12月から1月にかけて4回開催しました。毎回15人程度の新規就農者を含む若手経営者が受講しました。

普及指導員が講師となり、簿記記帳の目的や簿記の種類や仕組み、日常の仕訳から決算までの流れについて講義を行いました。

農業特有の勘定科目や消費税の複数税率、補助金を受けた場合の圧縮記帳など、難しいところもありましたが、毎回参加者からは熱心に質問が出されていました。

受講者の中には令和3年より複式簿記による青色申告を行う方もあり、今後は、作成した決算書を元に経営改善に向けた支援を行う予定です。

